

福島経済マンスリー

7月の県内経済は、一部に消費増税前の駆け込み需要による反動減がみられるものの、全体では持ち直しの動きが続いている。

1. 平成26年7月の県内経済

項目	コメント	景況判断	
		変化方向	水準
県内経済の景況	県内経済は、一部に消費増税前の駆け込み需要による反動減がみられるものの、全体では持ち直しの動きが続いている。		
消費動向	大型小売店販売額は、合計では3ヵ月連続して前年比で増加した。一方、新車登録台数は、4ヵ月連続で前年を下回った。		
公共投資	公共工事前払保証取扱は、件数が4ヵ月連続、請負金額と保証金額が3ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。		
設備投資	民間・非居住用建築着工は、棟数および床面積、工事費予定額がそれぞれ2ヵ月連続で前年を上回った。		
住宅投資	新設住宅着工戸数は合計で2ヵ月連続で前年を下回った。内訳をみると、分譲が4ヵ月連続で前年を上回ったものの、持家が2ヵ月連続、貸家が4ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。		
生産活動	鉱工業生産指数は、前月比が2ヵ月ぶりで増加し、前年比は10ヵ月連続で増加した。業種別の前月比をみると、7業種で増加し、12業種で減少した。		
雇用動向	有効求人倍率は、季節調整値が前月を下回ったが、原数値が前年を上回った。また、雇用保険受給者実人員は10ヵ月連続で前年を下回った。		

注：「変化方向」は前月と比較した現在における景況の変化方向（：改善、：不変、：悪化）、「水準」は現在における景況の水準をそれぞれ示す。「変化方向」は当月と前月における3ヵ月加重移動平均の前年同期比の比較、「水準」は当月の3ヵ月加重移動平均値と過去5年間の平均値の比較により、それぞれ判断している。ただし、「変化方向」が改善または悪化の場合でも、「水準」が変わらない場合もある。なお、公共投資および設備投資は6ヵ月加重移動平均値による判断、民間・非居住用建築着工および鉱工業生産指数は6月データ。

〈天気図（水準）の意味〉

晴れ	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨

良
い
悪
い

2. 県内経済動向の概要

(1) 前年同月比

(単位：%)

	項 目	前 年 同 月 比					
		26年2月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	△ 0.1	11.3	△ 2.4	3.7	2.7	4.0
	乗用車新車登録台数	22.3	19.1	△ 14.3	△ 10.3	△ 1.6	△ 3.0
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	△ 18.2	60.8	△ 40.9	219.0	67.7	17.8
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	193.7	△ 20.4	△ 21.4	288.4	124.0	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	44.6	5.1	△ 19.0	16.8	△ 1.9	△ 19.0
生産活動	鉱工業生産指数（総合） ^{注1}	8.8	16.5	7.8	3.5	9.5	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む） ^{注1}	0.12	0.16	0.17	0.18	0.15	0.19
	雇用保険受給者実人員	△ 11.6	△ 10.8	△ 16.7	△ 21.0	△ 16.6	△ 21.8

注1 原指数

(2) 前月比

(単位：%)

	項 目	前 月 比					
		26年2月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	△ 12.1	28.4	△ 18.9	9.0	△ 0.7	2.1
	乗用車新車登録台数	7.4	54.6	△ 59.6	3.2	23.7	△ 0.3
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	△ 75.6	373.1	△ 46.9	68.5	△ 7.9	16.4
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	48.3	△ 45.6	17.5	61.8	43.0	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	60.8	△ 26.2	△ 22.9	23.8	28.7	11.5
生産活動	鉱工業生産指数（総合） ^{注2}	△ 4.2	13.7	△ 10.1	△ 2.0	2.0	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む） ^{注2}	0.01	0.04	0.03	0.05	0.00	△ 0.01
	雇用保険受給者実人員	△ 5.4	0.8	△ 0.6	7.6	0.8	0.8

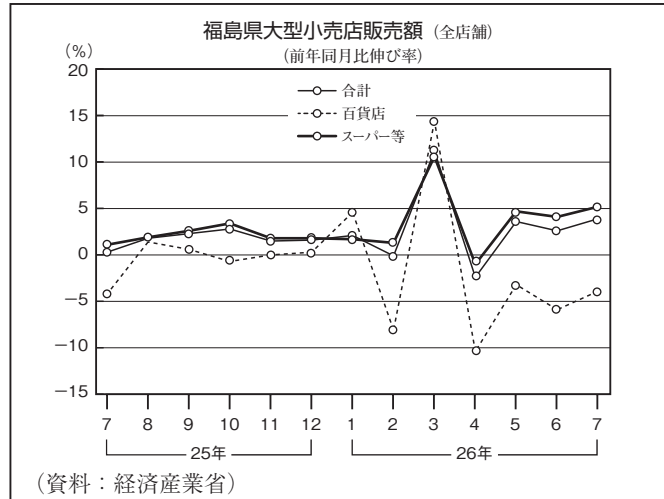
注2 季節調整値

3. 県内経済動向

消費動向

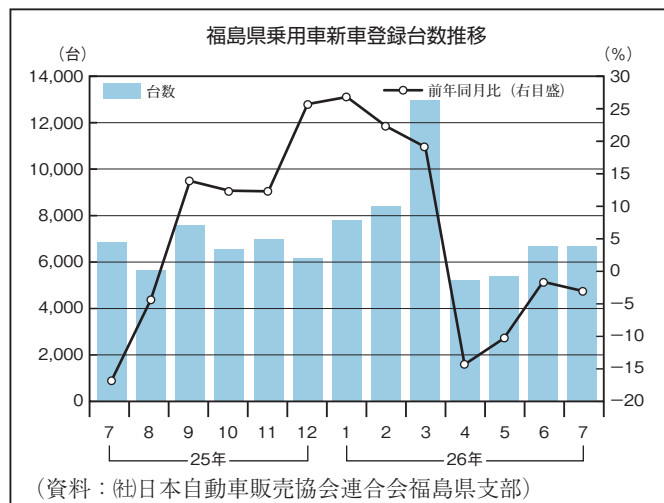
大型小売店：3ヵ月連続で前年比増

7月の県内大型小売店の販売額（全店舗ベース）は、合計で208億26百万円（前年同月比+4.0%）と3ヵ月連続で前年を上回った。業態別でみると、百貨店は、衣料品が前年を下回ったことなどから、合計では同△3.9%となった。一方、スーパーは、飲食料品が前年を上回ったため、合計では同+5.3%となった。



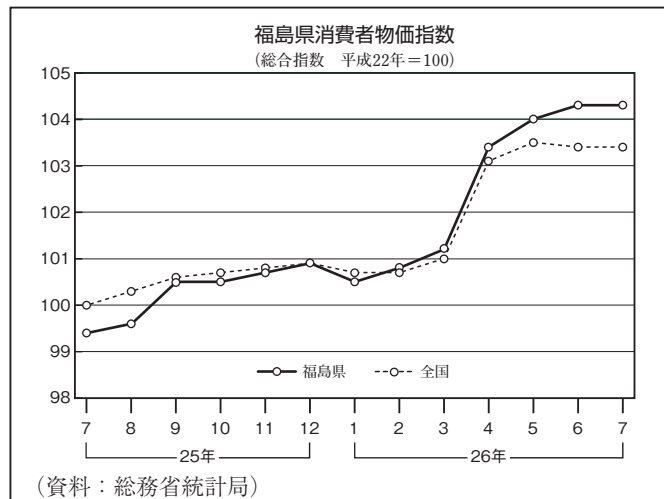
乗用車販売：4ヵ月連続で前年比減

7月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で6,658台（前年同月比△3.0%）となり、4ヵ月連続で前年を下回った。車種別でみると、小型車が2,166台（同+3.9%）と2ヵ月連続で前年を上回ったものの、普通車が1,969台（同△3.7%）と4ヵ月連続、軽乗用車が2,523台（同△7.8%）と2ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。



消費者物価指数：前年比で上昇

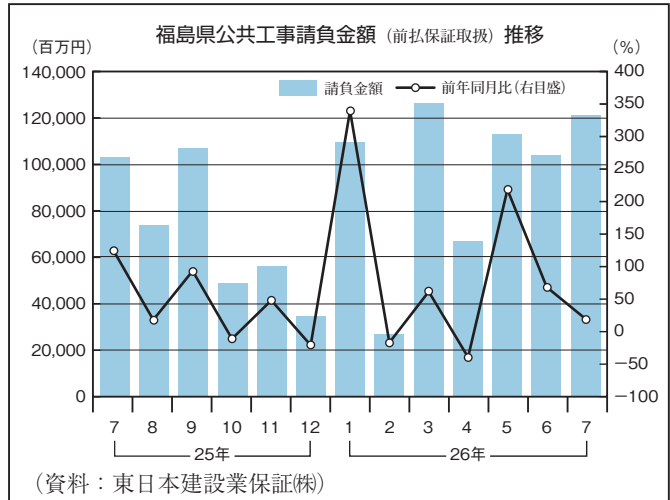
7月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成22年=100）でみると、104.3と前月と変わらなかったが、前年同月比では+4.9%となった。費目別にみると、「光熱・水道」の119.8（前月比+10.3%）など、10費目すべてが前年比で上昇した。



公共投資

公共工事：請負額は3ヵ月連続で前年比増

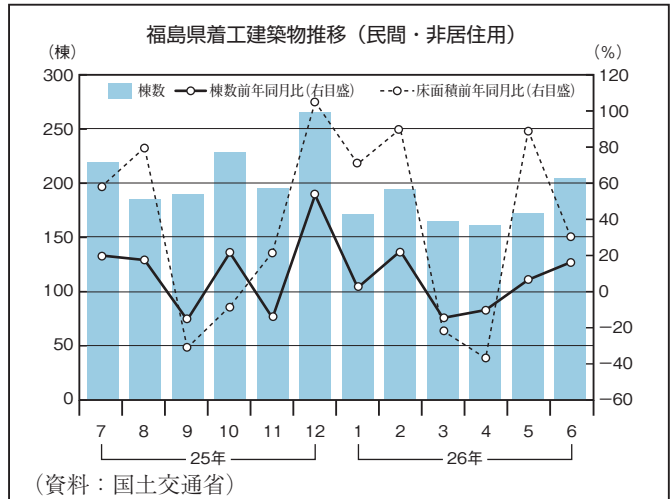
7月の公共工事前払保証取扱は、件数が1,010件（前年同月比+9.9%）と4ヵ月連続で前年を上回った。また、請負金額は1,211億70百万円（同+17.8%）、保証金額は660億7百万円（同+34.7%）と、ともに3ヵ月連続で前年を上回った。



設備投資

設備投資：工事費予定額が2ヵ月連続で前年比増

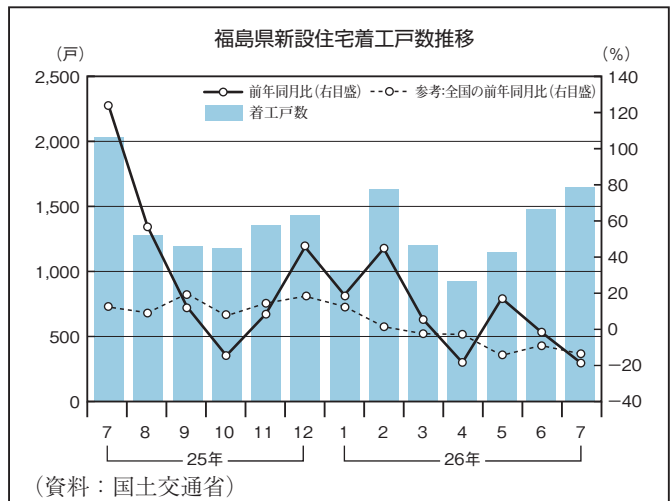
6月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が204棟（前年同月比+16.6%）、工事費予定額が317億円（同+124.0%）、床面積が137,590㎡（同+30.4%）と2ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。



住宅投資

住宅建設：2ヵ月連続で前年比減

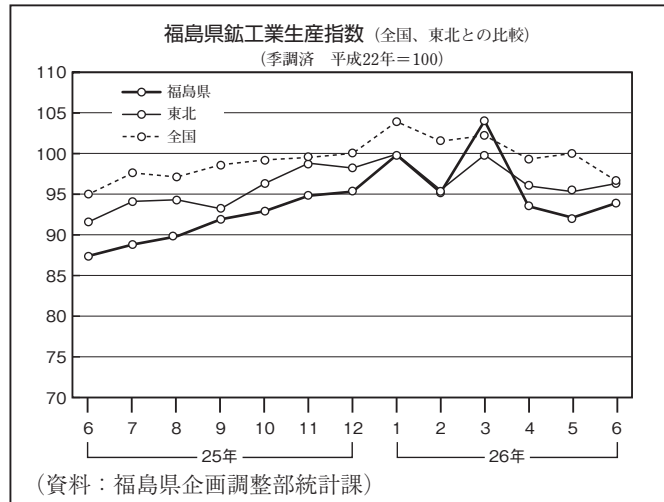
7月の県内新設住宅着工戸数は、1,647戸（前年同月比△19.0%）と2ヵ月連続で前年を下回った。主な利用関係別にみると、「分譲」が172戸（同+309.5%）と4ヵ月連続で前年を上回ったものの、「持家」が573戸（同△29.1%）と2ヵ月連続、「貸家」が898戸（同△24.0%）と4ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。



生産活動

鉱工業生産指数：10ヵ月連続で前年比増

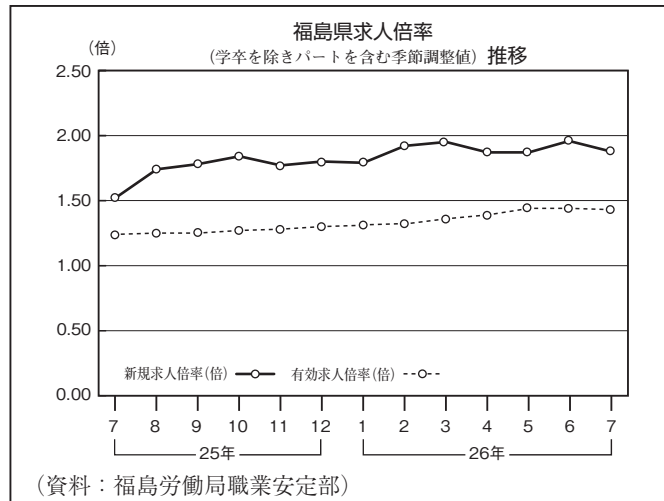
6月の鉱工業生産指数は、93.9（季節調整値）で前月比+2.0%と3ヵ月ぶりで前月を上回り、原指数が98.3で前年同月比+9.5%と10ヵ月連続で前年を上回った。業種別の季節調整値をみると、「食料品・たばこ工業」（前月比+21.2%）など7業種で上昇したが、「鉱業」（同△10.1%）など12業種で下降した。



雇用動向

雇用動向：有効求人倍率は52ヵ月連続前年比増

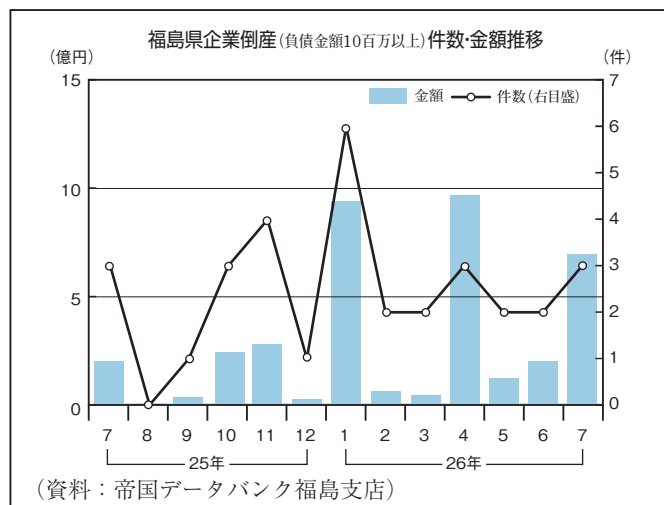
7月の新規求人倍率は、季節調整値が1.88倍（前月比△0.08ポイント）、原数値が2.10倍（前年同月比+0.38ポイント）となった。また、7月の有効求人倍率は、季節調整値が1.43倍（前月比△0.01ポイント）、原数値が1.40倍（前年同月比+0.19ポイント）と52ヵ月連続で前年を上回った。また、7月の雇用保険受給者実人員は7,312人（前年同月比△21.8%）と10ヵ月連続で前年を下回った。



企業倒産

企業倒産：負債額が前年比で大幅増加

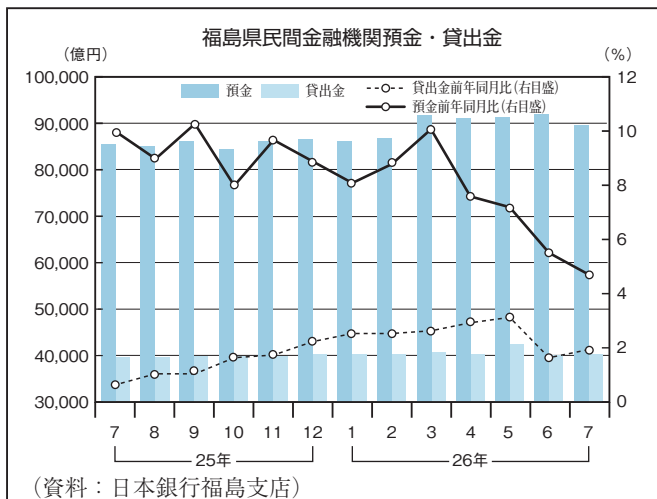
7月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、件数が3件（前年同月比0.0%）、負債総額が7億18百万円（同+317.4%）となり、負債総額は前年を大きく上回った。業種別では、製造業が2件、運輸・通信業が1件となった。



金融動向

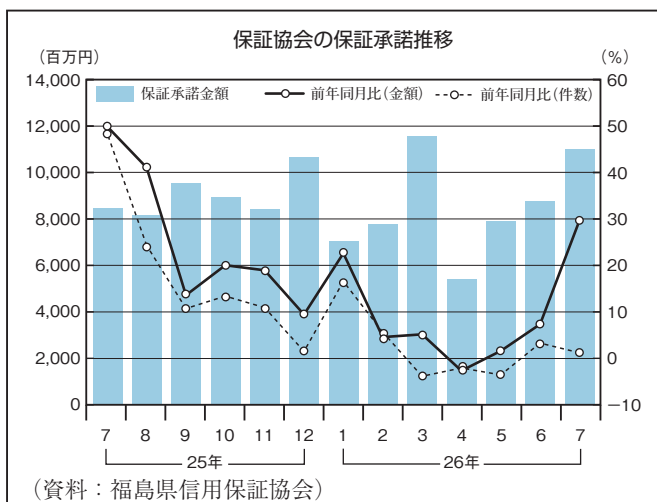
資金需給：預金、貸出金とも前年比で増加

県内金融機関（全国銀行、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の7月末の預金残高は、8兆9,761億円（前年同月比+4.7%）と89ヵ月連続、貸出金残高は、4兆229億円（同+1.9%）と14ヵ月連続で前年を上回った。



保証協会：保証承諾は件数、金額とも前年比増

7月の保証承諾は、件数が908件（前年同月比+1.0%）、保証金額が110億13百万円（同+29.7%）となった。また、7月末日現在の保証債務残高は、件数47,222件（同△3.8%）、金額4,174億51百万円（同△8.5%）となった。一方、7月中の代位弁済は、件数が30件（同+42.9%）、金額が2億33百万円（同△6.8%）となった。



4. 業種別動向

消費動向

家電量販店 7月の家電量販店の売上高は、エアコンの前年割れが続いている中で、冷蔵庫や掃除機などが前年を上回ったことから、合計では前年並みの水準となった。

ホームセンター 7月のホームセンターの売上高は、エクステリアなどが前年を上回ったものの、それ以外の商品が前年を下回ったことから、合計では前年を5%程度下回った。

旅行 6月の旅行取扱額は、海外旅行が前年実績を50%以上下回ったものの、国内旅行が前年実績を大幅に上回ったことから、合計では前年実績を10%以上上回った。

高速道路 7月の県内自動車道出入口数は、合計で5,068,785台（前年同月比△2.2%）と、4ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は1,268,471台（同+8.1%）と5ヵ月連続、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は438,327台（同+0.5%）と2ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。一方、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,759,065台（同△5.2%）、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は602,922台（同△9.3%）とともに4ヵ月連続で前年を下回った。

福島空港 7月の福島空港国内定期路線の利用状況は、22,160人（前年同月比△1.2%）と前年を下回った。路線別にみると、札幌便は9,653人（同△10.9%）、大阪便は12,507人（同+7.8%）となった。（国際定期路線は全便運休）

生産活動

化学 7月の食品包装フィルム用合成樹脂は、中国などの海外需要が持ち直し始めていることに加え、国内需要が堅調であることから、前年並みの生産水準を確保している。

鉄鋼・金属 7月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材が米国などの需要が回復してきたことなどから、前年をわずかに上回る水準となった。また、半導体向け電子材も、新興国の製品との競争が続いているものの、円安の影響が続いており、前年を20%程度上回る生産を確保した。建機用鋳造品は、中国やオーストラリアを中心に海外からの受注が減少したことから、合計で前年を10%ほど下回る生産となった。陸船用バルブは、中国などの低価格品との競争が続いている中で、安定した受注量を確保したことから、前年を25%ほど上回る生産となった。

輸送用機械 7月の鋳造品は、トラック向けがタイの需要に不透明感が出ているものの、北米および国内向けの生産が堅調なことから、合計ではほぼ前年並みの生産となった。一方、オイルシールは、東南アジアを中心に輸出が増加したことから、前年を5%ほど上回る生産となった。

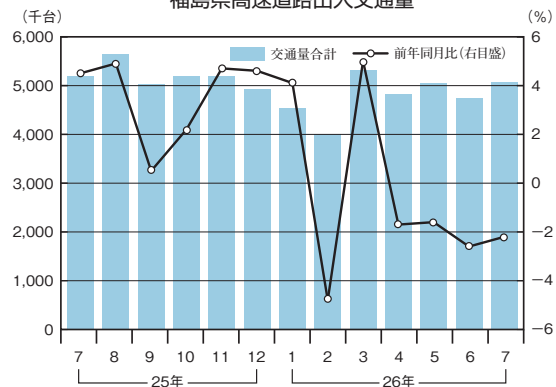
電気機械 7月の電気機械は、誘導炉および配電盤、変圧器、モーターの生産がいずれも前年を上回ったことから、合計では前年を30%以上上回る生産となった。

情報通信機械 7月の情報通信機械は、国内向けモバイル基地局の生産が前年を下回ったことなどから、合計では前年比で約5%の減産となった。

電子部品・デバイス 7月のLSI（大規模集積回路）の生産は、生産移管の影響などもあり、前月を10%以上上回ったが、前年を10%ほど下回った。

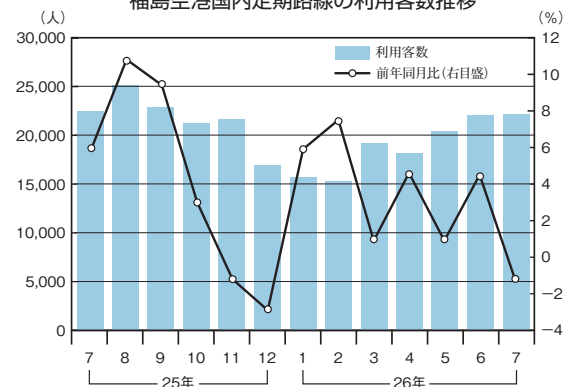
精密機械 7月の医療用内視鏡は、欧米向け高付加価値製品および国内向け新製品の生産が堅調なこと

福島県高速道路出入交通量



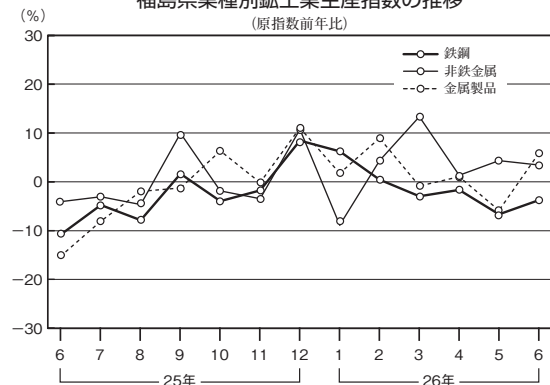
(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

福島空港国内定期路線の利用客数推移



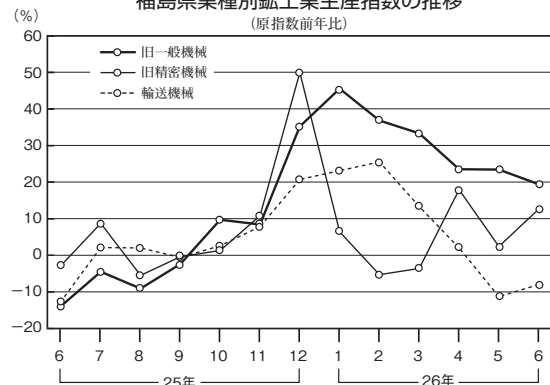
(資料：福島県商工労働部空港交流課)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移 (原指数前年比)



(資料：福島県企画調整部統計課)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移 (原指数前年比)



(資料：福島県企画調整部統計課)

から、合計では前年を5%以上上回る生産水準を確保した。また、デジタル一眼レフカメラ用レンズは、海外からの受注が増加しており、前年を20%以上上回る生産となった。

紙・紙加工品 7月の製紙は、消費増税前の駆け込み需要による反動減がはじまっており、ノーカーボン紙などの減産から、合計では前年を5%ほど下回る生産となった。

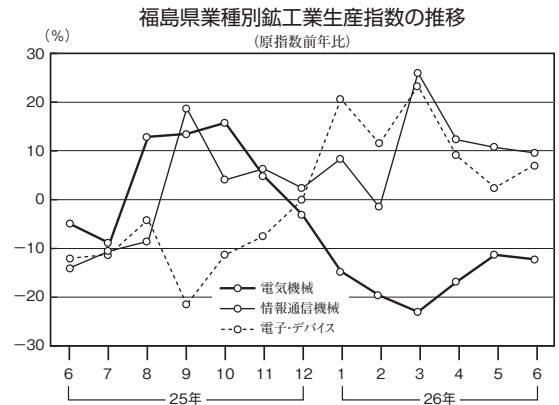
窯業・土石 7月の生コンクリート出荷量は、全体で172,859m³（前年同月比+7.5%）と5ヵ月連続で前年を上回った。民需・官公需別にみると、民需はいわきを除いた5地区が前年を上回り、合計で同+33.3%となった。一方、官公需は、県北と県中以外の4地区が前年を下回ったことから、合計で同△6.5%となった。

清酒 7月の清酒移出数量は、987kl（前年同月比△4.5%）と4ヵ月連続で前年を下回った。酒類別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が464kl（同△0.3%）、一般酒（特定名称酒以外の酒）が524kl（同△8.0%）と、ともに4ヵ月連続で前年を下回った。

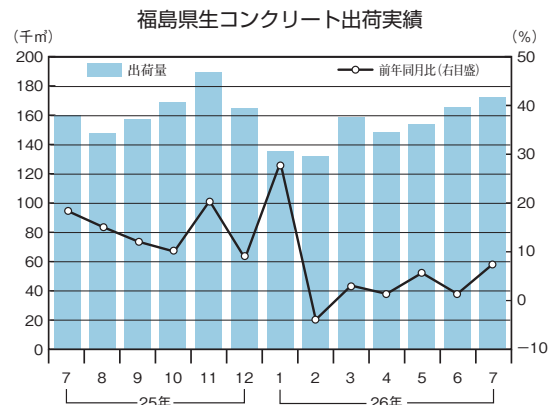
化合繊維物 7月の化合繊維物は、単価の高い製品にシフトしている影響などから、生産量が前年を15%以上下回ったものの、売上高では前年を35%程度上回った。

ニット 7月のニットは、冬物商品の生産が中心となり、前年を30%ほど下回る生産となった。

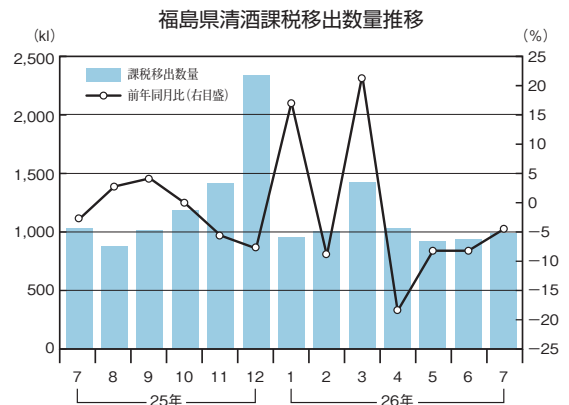
大口電力 7月の大口電力販売量は、515百万kw/h（前年同月比+2.5%）と2ヵ月連続で前年を上回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で108百万kw/h（前年同月比+7.5%）、「電気機械」で85百万kw/h（同+1.3%）、「輸送用機械」で61百万kw/h（同△1.7%）、「化学」で49百万kw/h（同+3.0%）、「一般機械」で29百万kw/h（同+2.0%）、「紙・パルプ」で18百万kw/h（同+2.6%）となっている。



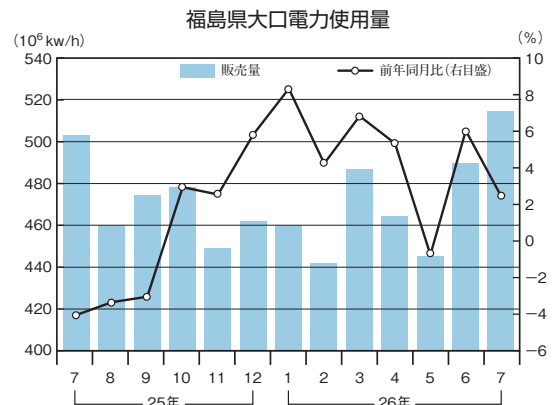
(資料：福島県企画調整部統計課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)



(資料：福島県酒造組合)



(資料：東北電力福島支店)